

識

五年

画数 19
筆順

言語 諸識 識
シキ



「ことば」の意味である「音(1年7)」と、「しるし」の意味の「セ」との組み合わせである「識」は、「しるし(意味)のあることば」という意味の字です。

識は、「意味のあることばを言う」という意味の字で「物知り(物事をよく知っている人)」ということを表した字です。

「よく知っている」という意味に使います。【例】知識、学識、博識。

また、「はっきりわかる」という意味にも使います。【例】常識、認識、識別、鑑識。

また、「知識」の意味にも使います。【例】有識、常識。

使い方

▽ぼくのおにいさんは、とても知識が豊かで、感心します。「なぜ、そんなに博識なの？」と聞いたら、「色々な本を読むからだよ」と言っていました。

▽わたしは、良識のある人間になりたいと思います。まだ一人前でない、わたしのような人間から見ても、常識のない人がたくさんいますが、わたしは、そんな人になりたくありません。

熟語例

- ▽知識(ある事柄について、知っていること。)
- ▽学識(学問についての知識。「あの先生は、大そう学識豊富な方だ」などというふうに、つかいます。)
- ▽博識(知識が広く、豊富なこと。)
- ▽意識(自分が今どんな状況にあるか、などが、自分ではっきりわかる、心の働き。「一時、気を失ったが、しばらくして意識を取り戻した」などというふうに、つかいます。)
- ▽常識(健全な社会人なら誰でも持っているはずの知識や判断力)
- ▽良識(良質の常識。健全な知識や判断力)

質

五年

画数 15
筆順

シツ・シチ・チ



「斧(木を切る道具ですが、物を切ったり割ったりするのに使います)」の形を表した「斤」二つと、「貝」とを組み合わせて作った字です。

「貝を斧で二つに割り、貝の「中身」を「確かめる」こと」を表した字です。

「中身」という意味と、「確かめる」という意味とに使われます。

「中身」【例】実質、本質、性質、物質、
「確かめる」【例】質問、質疑。

また、「約束の保証としてあずけておく物」の意味にも使います。この時は、シチと読みます。【例】質屋、人質。

使い方

▽わたしの妹は、とても臆病な性質です。暗い所をこわがるので、夜、お便所に行く時は、わたしがついて行ってやります。

熟語例

- ▽実質(実際の中身。「形式よりも、実質が充実していることが大切だ」などというふうに、つかいます。)
- ▽本質(本当の中身。「あの人の本質が、やっとわかった」などというふうに、つかいます。)
- ▽性質(人や物の、本来の特徴。生まれついていたち)
- ▽物質(物を作り上げている中身。また、形のあるもの。「この物質は、金属でできている」などというふうに、つかいます。)
- ▽質問(わからないことを問いたたして、確かめること。)
- ▽質疑(疑わしいことを問いたたして、確かめること。)